

ベラルーシ公開情報とりまとめ

(8月19日～8月25日)

2024年8月28日
在ベラルーシ大使館

【主な出来事】

- ウクライナ国境方面へのベラルーシ軍の展開(8月10日～)
- ロシアの無人航空機2機がベラルーシ領空に侵入した可能性(8月21日)
- 李強・中国国務院総理のベラルーシ公式訪問(8月22日、23日)

【ルカシェンコ大統領動静】

●ルカシェンコ大統領と李強・中国国務院総理の会談

(1)ルカシェンコ大統領の発言

・第二次世界大戦は我々両国にとって共通の痛みであると同時に、その戦勝も両国共通のもの。
・中国は様々な先進技術で世界をリードしており、ベラルーシもソ連時代以来の科学技術関連の能力を維持。2030年までに中国の技術をベラルーシに大々的に導入することを両国政府の課題とするよう提案。

・現在、両国にとって最も差し迫ったテーマは、経済面・投資面での協力を浮揚させ、政治面での協力の水準にまで引き上げること。

(2)李強・中国国務院総理の発言

・第二次世界大戦の際、中国の兵士がベラルーシで、ベラルーシ・ソ連の兵士が中国で、それぞれファシズムと戦った。我々両国は血によって強固にされた我々の友好を特に高く評価しなければならない。

・外交関係樹立後の32年間に、中国・ベラルーシ関係が躍動的に進展してきたのは、両国が高い水準で相互に信頼しているからという理由が最も大きい。

・あらゆるレベル、あらゆる分野において、両国が適時適切に立場を調整し、両国の核心的利益や重大な懸案事項に関わる事柄につき意見交換が継続して行われていることは喜ばしい。

(8月22日 国営ベルタ通信)

●ウクライナ独立記念日に寄せた、ウクライナ国民宛の祝電

・今日の困難な状況において、スラブ民族の現在と未来の世代のために平和の言葉を話すことは可能であ

るだけでなく、必要なことである。これに代えうる方法はない。ベラルーシ側は、一刻も早い地域の安全保障確保のために可能な全てのことを続ける。

(8月24日 大統領府)

【外交】

●スリランカは、10月1日以降、ベラルーシを含む35か国に対して査証免除での渡航を承認

(8月21日「ゼルカロ」)

●ゴロフチェンコ首相と李強・中国国務院総理の会談

(1)ゴロフチェンコ首相の発言

・中国の技術的・経済的支援が工業の近代化、新たな分野の確立、新たな企業の設立の原資となっておりとして謝意を表明。

・また、ベラルーシ・中国二国間の貿易高の増加、医療機材の調達や鉄道輸送の増加等の昨年からの進展が見られた事柄、中国・ベラルーシ産業特区「巨石」の発展、教育分野での二国間の協力の進展等にも言及。

(2)李強・中国国務院総理の発言

・ベラルーシと中国の友好は遠い過去に根ざすものであるとして、両国人民が第二次世界大戦時にファシストを相手に戦った歴史こそが、両国間の相互支援、相互扶助の強固な基盤となった旨指摘。

・また、世界的な管理体系の改善に両国が積極的に参加するための国連・上海協力機構(SCO)その他の国際機関を通じたさらに積極的な協調、「一帯一路」を含む世界的な発展に関する様々なイニシアチブの実現にも言及。

(3)成果文書等

・両国政府共同コミュニケでは、両国の協力の最重要分野を規定するとともに、制裁に反対する姿勢、第二次世界大戦の結果が揺るぎないものであることを改めて強調。

・両国間でサービスの自由貿易圏を設定し、投資を誘致するため、サービスの貿易と投資の実施に関する両国政府間協定を締結。

・総額約 10 億ドルの 5 件の産業プロジェクトを開始。また総額 20 億ドルの 12 件の産業プロジェクトにつき両国間で調整中。

・2024 年から 2026 年に向け、情報通信技術 (ICT)・生命工学・医療・機械製造・新素材等の 20 件の両国共同プロジェクトの実施を確定。

・ベラルーシ国立科学アカデミー中国支部の設立に向けた作業を開始。中国支部を通じた協力の基本分野は、航空宇宙工学・材料工学・複合材料・光学・光電子工学・高度技術設備や先進的装置の生産・マイクロエレクトロニクス・デジタル知能・生命工学・薬学等。

・中国・ベラルーシ産業特区「巨石」内を含めた複数のインフラ整備についても合意。

(8 月 22 日 国営ベルタ通信)

●米国は、新たにベラルーシ企業 2 社とその代表を制裁対象に追加

・ロシアへ武器、軍需品の部品を輸出しているとして、光学機器メーカー「ジアプロジェクトル」及び国家粉末冶金科学生産協会、及びそれぞれの代表が制裁対象に加えられた。

(8 月 23 日 米国財務省)

【内政】

●8 月 23 日現在の政治犯の数は 1,377 人

(8 月 23 日 人権団体「ヴァスナ(春)」)

【軍事・安全保障】

●ロシアの無人航空機 2 機がベラルーシ領空に侵入した可能性

・ウクライナの複数の Telegram チャンネルが、8 月 21 日朝、ロシアの無人航空機 (UAV) が 2 度ベラルーシ領に侵入した旨発表。ウクライナ・チェルニヒウ州から

ベラルーシ領へのロシアの UAV 侵入については、オレシチュク・ウクライナ空軍司令官も確認。

・侵入したとされる 2 機は、いずれも西へ飛行したと見られるものの詳細は不明。

・8 月 21 日朝には、ベラルーシ空軍・防空軍機の発進は確認されず。

(8 月 21 日 反体制派組織「ベラルスキ・ハユン」)

●ロシア軍側で戦闘に参加していたベラルーシ人兵士 2 人が死亡

(8 月 23 日 「ゼルカロ」)

●ウクライナ国境方面へのベラルーシ軍の展開

・8 月 18 日、ルカシェンコ大統領は、ウクライナ軍がベラルーシとの国境地帯に大兵力を集中させているが、ベラルーシは侵攻がある場合には反撃できる態勢にあること等発言。25 日にはヴォリフォヴィチ安全保障会議国家書記も、南部作戦方面やその他の方面に、特殊作戦軍・機械化部隊・防空部隊等の兵力で構成される軍集団を編成し、国境の防備に当たっている旨発言。

・8 月 23 日、反体制派組織「ベラルスキ・ハユン」は、8 月 10 日以降のベラルーシ軍のウクライナ国境方面への移動の状況につき、ベラルーシ国防省発表等も踏まえて詳細に分析。ウクライナ国境方面に移動した兵力は合計 1,100 人以下であることや、集結地点もウクライナ国境から 50km であること等から、ウクライナにとって脅威ではない旨指摘。

・8 月 25 日、ウクライナ外務省は、ベラルーシ軍が演習を装ってウクライナとの国境地帯に兵力を展開しているとした上で当該部隊の撤退を要求。26 日、コヴァレンコ・ウクライナ国家安全保障・国防会議 (NSDC) 偽情報対策センター長は、ウクライナ国境付近に集結中のベラルーシ軍の兵力や動向を踏まえ、現時点ではベラルーシからの侵攻は不可能とした上で、本件はルカシェンコからプーチンに向けた芝居に過ぎないと評価。

(8 月 25 日 「ベラルスキ・ハユン」、ウクライナ外務省、26 日 「ポジルク」)

●ベラルーシから欧州への不法越境の試み

(8月19日～8月25日)

- ・リトアニア国境警備局は少なくとも25人を阻止。
- ・ラトビア国境警備隊は少なくとも116人を阻止。
- ・ポーランド国境警備隊は少なくとも484人を阻止。

(8月20日～8月26日「ポジルク」)

●政治犯の釈放に関するスタノEU報道官の声明

・8月16日、ルカシェンコ大統領は、抗議行動の関連で有罪とされた30人に対する恩赦を発表した。

・8月22日、スタノEU報道官は、同声明で、ベラルーシにおける政治犯の釈放を歓迎するとともに、釈放された政治犯の中には緊急の医療支援を必要とする囚人もいたことに留意し、当局に対し、全ての囚人に適切な医療を提供するよう要求。

・さらに、EUは引き続きベラルーシ当局に対し、しばしば生命を脅かす状況で拘束されている全ての政治犯を即時かつ無条件に釈放するよう要請。

(8月22日 欧州対外行動庁)

【民主勢力の動き】

●チハノフスカヤ民主勢力代表の動向

・ポーランドで開催されたイベント「Campus Polska」に出席。同イベントの枠内で、シリャプカ・ポーランド EU 問題担当大臣と会談し、政治犯の釈放や、非抑圧者の支援の問題につき協議。また、チハノフスカヤ氏は、ポーランドに対し、旅客輸送のため、国境の閉鎖を行わないよう要求。

(8月25日 チハノフスカヤ氏公式サイト)

(了)